

## 第6章 評価と見直しの考え方

### 6-1 評価指標の設定

南部地域における実証運行は、各生活拠点内や鳥取市中心部への運行サービスを現状よりも意図的に向上させ、その際に要する経費や住民の潜在的な移動ニーズを把握し、有効で持続可能な運行サービスを検討することを目的としている。

さらに、実証運行で提供するサービスは本格運行に向けた試案でもあり、本格運行に向けて、様々な観点から評価を行う必要がある。評価を行う視点を以下に示す。

#### 評価の視点

- 必要性：公共交通によって活動の機会を確保する人々が一定以上いるのか
- 適切性：導入した乗合交通の運行方法やサービスが地域の状況に即しているか
- 有効性：利用者にとって使いやすいサービスか
- 健全性：経費が過大ではないか
- 持続可能性：今後に亘ってサービスを維持できるか

以上の視点に基づき、また継続した評価が容易に実施可能であることを重視して、以下の指標を評価指標として取り上げる。

#### 各視点における主な評価指標

- 路線別の一便当たり平均利用者数（必要性・適切性）
- 便別の平均利用者数（必要性・適切性）
- 住民の外出回数<sup>\*</sup>（有効性）
- 公共交通への転換率<sup>\*</sup>（有効性）
- 収支率（健全性・持続可能性）

<sup>\*</sup> 実証運行中に行うアンケート調査により算出

## 6-2 実証運行における見直しの考え方

実証運行の終了後に、当該のサービスをそのまま継続するのか、改善・見直しを行うのかについて判断する。その際、実証運行で提供したサービスの評価は、5-1で挙げた指標に加えて利用者の声（満足度、JRとの接続性、送迎負担の軽減など）を勘案し、総合的に検討を行うものとする。

また、地域住民の活動可能性を担保する点も考慮し、総合的な評価が低いからといって短絡的にサービスを縮小するのではなく、対象地域の生活環境や利用促進策による需要増の可能性などを勘案しながら、見直し内容を検討する。

## 6-3 本格運行におけるPDCAサイクルに基づく見直しの流れ

実証運行後、本格運行における評価や運行サービスは、Plan（計画）、Do（運行）、Check（評価）、Act（改善）のPDCAサイクルによって常に見直しを行う。

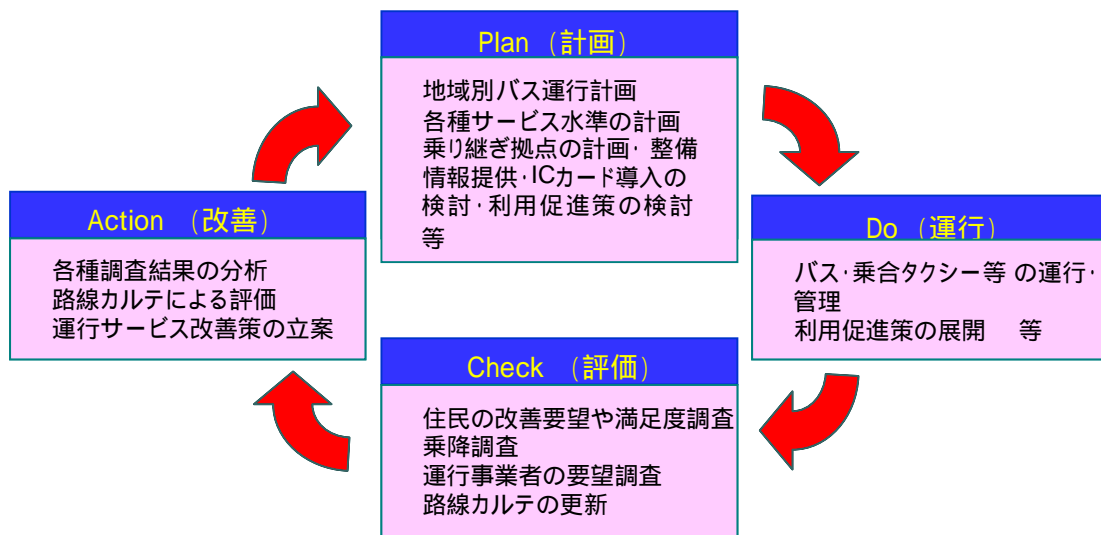


図 18 PDCA サイクルによる見直しの流れ